

自然災害と原子力災害が重なった場合の対応などで議論 久々に災害対策特別委員会開催

市議会災害対策特別委員会が11日、開催されました。テーマは市が現在進めている地域防災計画・水防計画の改訂です。今回の改訂は関係法令の改正、最近の災害対応の教訓、新型コロナなど感染症対策、上越市での大雪災害の検証結果などを踏まえたものです。

市の説明後、委員からは、「『自助』意識の強化を明記した理由はどこにあるか」「いっせいで雪下ろしの前にどうしても雪下ろしをせざるを得ない場合の対応は?」「道路管理者同士の連携と除雪実施路線の相互乗り入れについて説明してほしい」「ハード計画については、いつ、どれくらいのお金をかけて取り組むか、実施計画を策定すべきではないか」などの質問が出ました。

私からは、「要配慮者利用施設の避難確保対策を明記することになったが、これは改訂前からの課題だ。洪水、土砂災害リスクの高い区域の要配慮者利用施設はどれくらいあるか。また、避難確保計画の作成はどれくらいすすんでいるか」

「複合災害時に自然災害による人命へのリスクが高い場合は自然災害に対する避難行動を原子力災害に対する避難行動よりも優先させる、としているが、自然災害が複数重なった場合と違って、どちらも人命にかかわることだ。どう対応する

か」「国や県などと道路除雪路線の相互乗り入れについて明記することは重要だ。昨年も対応してほしいケースがあった。これまでに相互乗り入れしたことはあったか」と質問しました。

私の質問に市の担当者は、「洪水関係で65施設、土砂崩れ関係で27施設あり、いずれも避難計画は策定済みだが、避難訓練未実施が一部にある」「原子力災害との複合災害となった場合、人命にかかわる自然災害の避難行動を優先させる方針は国の方針だ」「除雪路線の相互乗り入れについては令和3年度の除雪計画に書いている。地域防災計画にも明記するという事で提案している」と答えました。

原子力災害時の避難計画については、現在、UPZ圏内（原発から30^{キロ}圏内）はまずは屋内退避をとっていますが、昨今、この屋内退避の被爆が問題とされたり、感染症対策との矛盾が指摘されています。科学的知見を集め、早急に見直す必要があります。異常降雪時にお



ける、国、県、市による除雪路線の相互乗り入れを地域防災計画に明記したことは重要な前進ですね。

今回の改訂案については、今月中旬から1か月間パブリックコメントが行われ、その後、防災会議にかけて7月中には公表される見通しです。



【ナンジャモンジャの木】ネットで調べたところ、正式名称は「ヒトツバタゴ」、モクセイ科の落葉広葉樹とありました。この木は全国的にも珍しい木で、対馬、愛知県木曾川地域など一部の地域にしかありません。花言葉は「清廉」です。写真は17日、吉川区原之町のIさん宅で撮影しました。



捕虜収容所などでの検閲について語る佐々木さん。

検閲の実態に驚き
市民プラザで開催された「今日の平和展2022」の2日目、前島記念池部郵便趣会会長の佐々木雄二さんが、展示されている「検閲された郵便」資料についての解説をしてくださいました。
「日本で第九を初めて披露されたのは捕虜収容所だった」「〇の数で発信地がわかるようにしてあった」「ごみの中から宝物を見つけようと、4年間ほど整理を続けた」などということを知り、改めてすごい「検閲」資料だと思いました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2061 2022.5.22
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」は ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七〇八回 ゼンマイ飛行機

先日他界した叔父にかかわることでもう一つ書いておきたいことがあります。それは三年前の従弟の死についてです。

亡くなった従弟は叔父にとっては長男になります。亡くなった当時、従弟はまだ六二歳という若さでした。叔父そっくりの顔立ちをしていて、頭の回転もよく、都内にある専門学校で教師をしていました。

生前の叔父は、この従弟の死をずっと知らずにいたと私は思っていました。当時、叔父は九三歳。見た感じは元気で、自分の連れ合いに続いて長男が先立ったとなると、精神的ダメージが大きいのではないかと。伝えたことで身も心もガタガタときたら困る。そう思っていて、家族からも私からも長男が亡くなったことを伝えないことにしていたからです。叔父が入所していたグループホームのスタッフのみなさんにも「叔父に伝えない」考えであることをお伝えし、了解していただいていた。

ところが、誰も叔父に教えなかったにもかかわらず、叔父は長男の死を感じとっていたようだ、葬儀の翌日、叔父が入所していた施設のスタッフの方から教えていただきました。

入所以来、叔父は毎朝、施設から見える吉川区のシンボル、尾神岳に手を合わせていました。長男が亡くなった翌日の朝も、尾神岳に手を合わせていましたが、その時間はとても長く、しかもその際、何かつぶつぶ言っていたというのです。ひよっとすると、お経を唱えているのではないかと。施設のスタッフのみなさんは叔父の様子を見て、長男の死が直感でわかったのではないかと心が震えたと言います。

その話を聞いて、これまで不思議に思っていたことが理解できるようになりました。これまで一番叔父のことを気にかけ、叔父の心配をしていた長男が叔父の顔を見に来ない、電話も手紙もよこさない。新型

コロナウイルス感染症のことがあるにしても、叔父はいつかそのことに疑問を持ち、自分の子どもたちか私に何か言ってくるのではないかと、そう思っていたのですが、長男のことはひと言も言いませんでした。今回、ようやくその謎が解けました。

叔父の葬儀の中では、いまでは懐かしい叔父と叔母の夫婦喧嘩のことなどの思い出話が次々と出ました。そして、亡くなった長男のことも話題となりました。何がきっかけだったかは記憶していません。話はじめたのは長男の連れ合いです。

「お父さん（連れ合い）が、子どもたちの前で草の飛行機をつくって飛ばし、子どもたちが『お父さん、すごい』と言っていた」

「草の飛行機」というのはゼンマイで作った飛行機のことです。それまであまりしゃべらなかつた長男の連れ合いがうれしそうに話をしたので、私は斎場周辺の道などでゼンマイを探しました。どこかにはあるはずだと思っただけなのですが、五分も経たないうちに手頃のゼンマイを見つけました。

早速葉をちぎり、かっこいい「ゼンマイ飛行機」をつくって待合室で飛ばしました。無風の中でしたので、なかなかうまく飛ばせませんでした。でも、「ゼンマイ飛行機」のおかげで、亡くなった長男も「加わって」叔父をしのぶことができました。

初七日の法要が終わってから後生寺に行きました。短時間だったものの、叔父の家の中に入り、仏壇の前で叔母と叔父の写真を並べました。遺骨も仏壇におきました。そして、みんなが叔母に声をかけました。

「かあちゃん、長い間、一人にしておいてごめんね。今度、とうちゃんもあんなちゃんも行くから仲良くしてね」

叔父が約五年間、施設に行き、その間、留守を守ったのは仏壇のなかの叔母でした。二六年前、六八歳で旅立った叔母にはみんなの気持ちが伝わったように感じました。

「お父さん、長い間、一人にしておいてごめんね。今度、とうちゃんもあんなちゃんも行くから仲良くしてね」

叔父が約五年間、施設に行き、その間、留守を守ったのは仏壇のなかの叔母でした。二六年前、六八歳で旅立った叔母にはみんなの気持ちが伝わったように感じました。



善長寺の掲示板

吉川区代石の善長寺の掲示板の最新メッセージです。「平凡な生活がおくられる幸せいつまでも」という言葉にひまわりの花の折り紙、書かれた人の気持ちが伝わってきます。



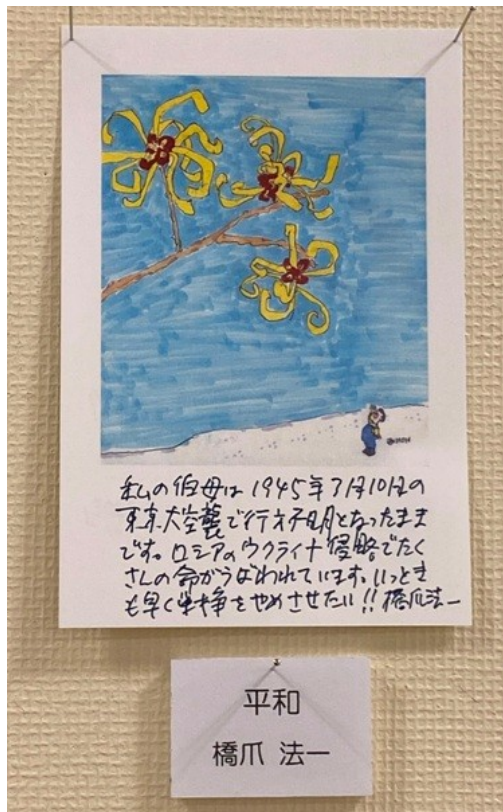
平和展に初めて出展

「今日の平和展」が14日、15日と市民プラザで開催されました。

今回の平和展には絵画を中心に、歴史資料、彫刻、織物などがたくさん出展されていました。特徴はロシアのウクライナ侵略を意識した作品が多く出ていたことです。

今回初めて私も出展しました。作品は議会報に掲載されたウクライナのひまわりを描いたイラストとマンサクの花を描いたはがき大のイラストの2枚です。

出展したおかげで、いろんな美術家、愛好家の皆さんと会うことができ、交流することができました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月10日(火)	5月18日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.043	0.043
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.040	0.047